

(6)
訓
本

1-11.0-59

1299

510

REEL No. A-0269

0321

アジア歴史資料センター

3

日本軍佛印進駐ニ關スル日佛協定締結交渉経緯

昭和十五年七月
同 年九月

外務省南洋局第三課



「カトル」佛印總督ノ日佛印間政治協定

締結方希望表明

昭和十五年六月下旬佛印經由蔣回物資輸送禁絶状況視察ノ爲派遣セラレタル我軍軍事專家ヲ中心トスル監視員一行ノ佛印到着以來「カトル」佛印總督及佛印軍司令官ハ誠意ヲ以テ右輸送禁絶ヲ實行スベキ旨及右監視員ノ任務遂行ニ協力スベキ旨ヲ繰返シ言明シ、佛印内各地ヘ派遣セラレタル監視員ヨリノ報告ニ依ルニ右輸送禁絶ハ事實勘行セラレ居タルガ佛印當局ニ於テハ更ニ(イ)不取敢七月七日以降一ヶ月間支那ヨリノ輸出品ノ佛印流入ヲ禁絶シ(ロ)我監視員用無線電信機ノ設置及海防海口間海底電線敷設ヲ承認スル等能フ限り好意ヲ示サント努メタリ

斯クノ如ク我方ニ對シ極力妥協的態度ニ出テ來レル佛印總督ハ次
 デ右監視員ノ首班タル西原少將等ニ對シ若シ日本ガ佛印ノ領土保
 全ヲ尊重スルニ於テハ佛印トシテモ軍事的ニハ日本ト對蔣防守同

S 1.1.1.0-59

1301

512

S 1.1.1.0-59

1300

511

盟ヲ結ビ現在ヨリモ廣汎ナル範圍ニ於テ積極的ニ協力シ得ルト共ニ經濟的ニハ日本ノ佛印ニ對スル輸出増進及企業的發展等ニ關シ好意的取計ヲ爲スノ用意アルニ付日本政府ヨリ右趣旨ノ協定締結方提議セラレ度ト申出タルガ我軍カ對支作戰上重要視スル日本軍隊ノ佛印通過及佛印間飛行場使用等ニ對シテハ佛印總督トシテハ其ノ權限外ノ事項ナリトシ日佛政府間ニ正式ニ交渉セラレ度ト申言ヘリ

1302

513

ニ右佛印總督ノ對日勸掛ケニ對スル佛本國政府ノ態度

七月十五日佛國外相ハ其ノ求メニ依リ往訪セル澤田大使ニ對シ過般西原少將「カトル」總督會談ノ際談論ハズミ日佛政治同盟關係ニ迄及ヒタル趣ナルカ同少將ハ物資輸送禁絶監視ノ爲ニ派遣セラレタル者ト了解シ居リ佛印總督モ右ノ如キ政治問題ヲ討議スル權限ハ有シ居ラサルヲ以テ双方トモ行キ過キノ感アリ然レバトテ自分ハ右ニ對シ不滿ヲ言フ意思ハ全然無ク寧ロ其ノ程度迄兩者カ胸襟ヲ開キテ語り合ヒタルコトヲ喜ビ居ル次第ニシテ自分ハ從來印度支那銀行ノ關係ヨリ極東ニ關シテハ日本ト提携スルノ外無シトノ說ヲ持シ居レリ然ルニ兩三年來日佛交渉ハ實際ヲ離レタル理論爭ノ爲紛糾ヲ重ネ來リ今日ハ將ニ此ノ紛糾ヲホゴス爲虛心坦壞ニ語り合フベキ時機ニ到達セリト考ヘ居レリ即チ先ツ第一ニ日本、佛印間ノ有無相違ノ經濟關係ヲ益々緊密ナラシメルコト其ノ二ハ政治關係ノ緊密化ヲ圖ルコトニシテ、今般佛側ニ於テ鐵道會

S 1.1.1.0-59

1303

514

S 1.1.1.0-59

社ノ損失ヲ忍ビテ雲南鐵道武器輸送禁絶ノ大英斷ニ出デタルノモ
支那側ノ怨ヲ買フ如キハ之ヲ意ニ介セズ極東ニ於テハ日本ノミト
話合ヒ得ベシトノ自分ノ信念ヲ貫キ度キ希望ノ表レナルカ何時迄
モ無制限ニ鐵道側ニ損失ヲ繼續セシムル譯ニハ行カズ實ハ日本側
ニ於テモ之ガ代償ノ考慮ヲ願度キ次第ナリ就テハ右自分ノ忌憚ナ
キ氣持ヲ日本政府ヘ傳ヘラレ日本側ノ意向ヲ確カメラレ度シト言
ヘルニ依リ大使ヨリ西原「カトル」會談ニ付テハ未タ公報ニ接
シ居ラザルガ經濟問題ニ付テハ先般谷次官ト「アンリ」大使ト
ノ間ニ現地ニ於テ交渉ヲ進ムル趣旨ノ話合アリタルニ鑑ミ日本政
府ニ於テハ佛印側ト交渉ノ爲代表團ヲ佛印ニ派遣スル積リナラシ
ト了解シ居ル處佛側ニ於テハ右ニ拘ラス佛本國ニ於テ話合ヲ進メ
ントセラルルモノナリヤト尋ネタルニ同外相ハ細目ノ問題ハ現地
ニ委セテ可ナルモ經濟、政治ノ双方ニ關聯アル大筋ニ付テハ佛本
國ニ於テ話合ヲ進メ度シト答ヘタリ

本問題ニ對スル我方ノ方針決定
右ニ付我方ニ於テハ陸海軍當局ト協議ノ結果佛側ヘノ提議ノ成案
ヲ得タルガ具體的交渉ハ後任外務大臣ノ決裁ヲ經タル上政治軍事
協定ニ付テハ主トシテ東京ニ於テ、經濟協定ニ付テハ河内ニ於テ
行フコトニ方針ヲ決定シ七月下旬不取敢左ノ如キ訓令案及説明案
ヲ在河内鈴木總領事ニ送付スルト共ニ佛本國政府ニ對シテハ澤田
大使ヲシテ我方態度ハ新内閣（七月二十二日米内内閣ニ代リ第二
次近衛内閣成立）ノ外交方針決定ヲ俟ツテ定マルベキ旨ヲ申入レ
シメタリ

(一) 訓令案

佛印トノ政治、軍事協定及經濟協定ニ關スル件

一 佛印トノ政治軍事協定及經濟協定ニ關スル方針

陸海軍當局ト協議ノ結果我方ヨリ佛側ニ對シ左記内容ノ政治軍事協定及經濟協定締結方ヲ提議スルコトトシ政治軍事協定ニ付テハ當地ニ於テ「アンリー」大使トノ間ニ交渉ヲ行ヒ經濟協定ニ付テハ貴官ト佛印總督トノ間ニ交渉ヲ行フベキコトニ決定セリ。依テ貴官ハ委細別紙(乙)號説明ニ依リ御含ミノ上經濟協定ニ付テハ直接總督ト交渉ヲ開始セラレ度ク政治軍事協定ニ付テハ西原少將ヲ輔佐シ佛印總督ニ對シ我方意向ヲ徹底セシメラルト共ニ總督ヨリ本國政府ニ我方要求受諾方ヲ進言セシムル様極力御努力アリ度ニ協定ノ内容

(一) 政治軍事協定

(イ) 佛印ハ東亞新秩序建設並ニ支那事變處理ニ付帝國ト協力スベク、特ニ差當リ對支作戰ノ爲派遣セラルベキ日本軍隊ノ佛印通過及佛印内飛行場ノ使用(之ニ伴フ地上警備兵力ノ駐屯ヲ

含ム)ヲ認メ右日本軍隊用武器彈藥其ノ他ノ物資輸送ニ必要ナル各種便宜ヲ供與ス

(二) 經濟協定

芳賀事務官携行ノ「對佛印經濟通商交渉方針ニ關スル件」ノ別紙甲號ノ通(右別紙)中ノ「營業」ニハ銀行業ヲ含ムモノトス

以上

(二) 説明案

佛印トノ政治軍事協定及經濟協定ニ關スル件

一 帝國ハ現下ノ佛國ノ地位及日佛關係ニ鑑ミ此ノ際佛印ヲシテ東亞新秩序建設並ニ支那事變處理ニ對スル協力ヲ約セシムルト共ニ右目的ノ爲差當リ本件政治軍事協定及經濟協定ノ内容タル帝國ノ要求ヲ容レ、軍事、經濟兩方面ニ於テ帝國ヲ支持センメントヲ期スル次第ナリ而シテ軍事的ニハ重慶政權ヲ壞滅セシムル爲單ニ佛印ヲシテ蔣尙物資輸送ヲ停止セシムルニ止マラス、更ニ重慶政權ニ對スル作戰ノ必要上別紙(附號ニ(一)(イ)ノ要求ヲ提示スル次第ナリニ佛印ニ於テハ其ノ領土ノ安全ニ付危惧ノ念ヲ有シ、我方ヨリ領土保全ノ尊重ニ關スル言明ヲ取付ケンコトヲ切望シ居ルニ鑑ミ、何等方適當ノ形式ニ依リ右趣旨ノ言明ヲ與ヘ我方ノ公明ナル態度ヲ表示セントスル次第ナルガ右ハ我方ガ佛印ノ領土ヲ侵略スルノ意圖ナキコトヲ表明スルモノニシテ第三國ノ侵略ニ對シテ迄モ佛印

S 1.1.1.0 -59

1308

519

ノ安全ヲ保護スベキ義務ヲ負フモノニ非ズ、尤モ右第三國ノ佛印侵略ハ東亞新秩序建設ノ障礙タルニ依リ我方トシテハ之ヲ默視シ得ザルコト勿論ナルモ、右ニ對シ執ルベキ措置ハ我方獨自ノ立場ヨリ決定スルモノナリ

二 佛側ガ海南島、新南群島、西沙島等ノ問題ヲ持出ス場合ニハ右ハ佛印ニ關スル本件協定ト直接關係無キコトヲ指摘シ一蹴スベキコト勿論ナリ

三 萬一佛側ガ政治軍事協定ノ内容タルベキ我方要求ヲ全面的ニ拒否スル場合ニハ我方トシテハ佛印領土保全ノ尊重ヲ言明スベキ限リニ非ザルコト勿論ナルガ我方ノ執ルベキ態度ハ先方ノ出方及國際情勢等ヲ見タル上之ヲ考究決定スベシ

四 經濟協定ハ我方ト佛印トノ經濟提携ヲ圖ルコトヲ目的トスルモノニシテ我方ニ於テ佛國及其ノ他ノ國ノ利益ヲ全然無視シ佛印ニ關スル經濟的利益ヲ獨占セントスルガ如キコトヲ意圖スルモノニ非

S 1.1.1.0 -59

1309

520

ズ。然レドモ我方ハ通商、企業、入國等ニ關スル事項ニ付佛國、佛國人及佛國物資ト同様ノ待遇ヲ要求スル次第ニシテ右ハ普通ノ通商條約ノ内容ヲ超越スルモノナルニ依リ佛印側ガ難色ヲ示スコトハ豫想セラルル所ナルモ我方トシテハ政治軍事協定ニ依リ佛印領土保全ノ尊重迄モ言明スル次第ナルヲ以テ右我方經濟的要求ハ最大限度ニ貫徹スルヲ要スルコト勿論ナリ尤モ經濟協定ニ關スル交渉ハ其ノ性質上政治軍事協定トハ別個ニ之ヲ行フモノトス

六(1)政治軍事協定ノ交渉當事者ノ問題ニ付テハ、佛印總督ノ言モアリ且本件協定ハ領土保全ノ如キ重要ナル政治問題ヲ含ムモノナレバ當地ニ於テ帝國政府ト「アンリー」大使トノ間ニ交渉ヲ行ヒ、協定ヲ締結スルコトトス但シ其ノ形式ハ追テ考慮スルモノトス

(2)經濟協定ニ關スル交渉ハ貴官ト佛印總督トノ間ニ於テ之ヲ行ヒ交渉成立ノ上ハ、樞密院ノ關係モアルニ付佛印總督ヨリ貴官宛書翰ヲ以テ佛印側措置ヲ一方的ニ通告シ貴官ハ之ヲ「テイク・ノ」

ト」スル形式ニ依リ、爾後ノ手續ハ當地ニ之ヲ移シ然ルベク措置スベシ

(註、經濟協定ノ具體的細目ニ關スル附屬書類省略)

以上

政治軍事協定ニ關スル對佛交渉開始（八月一日松岡大臣「アンリ
ー」大使會談「日佛第一次會談」）

八月一日松岡外務大臣ヨリ「アンリ」大使ノ來訪ヲ求メ帝國政
府ニ於テハ過般來佛印ニ於ケル蔣向物資輸送禁絶措置ヲ多トシ居
ル處佛領印度支那政府ガ帝國ノ東亞新秩序建設及支那事變處理促
進ノ爲政治的、軍事の並ニ經濟的ニ更ニ廣泛ナル範圍ニ就テ協力
センコトヲ要望スル旨ヲ前置キシ政治的、軍事の協力問題ニ於テ
ハ（註、經濟問題ニ關スル部分ハ別ニ作成ノ日佛印經濟交渉「レ
ジューメ」参照）其ノ具體的内容トシテ對支作戰ノ爲派遣セラレベ
キ日本軍隊ノ佛印通過及佛印内飛行場使用（之ニ伴フ地上警備兵
力ノ駐屯ヲ含ム）ノ容認並ニ右軍隊用武器彈藥其ノ他ノ物資輸送
ニ必要ナル各種便宜供與方ヲ要求スルト共ニ右軍隊通過等ニ關
スル要求ハ支那事變處理ヲ目的トシ蔣政權打倒ノ爲必要ナル範圍
内ニ限ラルベク何等佛印領土ヲ侵略セントスル意圖ニ基クモノニ

S 1.1.1.0-59

1312

523

非ザル旨附言シ更ニ本件ハ重要ナル政治問題ナルニ依リ東京ニ於
テ交渉ヲ進メ度ク且事ノ緊急性ニ鑑ミ至急右ニ對スル佛國政府ノ
回答ヲ得度キ旨申入レタルニ大使ハ右日本側要求ハ日本スラ支那
ニ對シ宣戰ヲ布告シ居ラザルニ中立的立場ニ在ル佛國ニ對シ對支
宣戰布告ヲ要求スルニ等シト述ベシニ依リ大臣ヨリ宣戰布告ノ有
無ノ如キハ問題トナラズ佛國ガ支那ニ於テ大規模ノ戰鬪行爲行ハ
レ居ル現實ノ事態ヲ直視センコトヲ求ムルニシテ我方トシテハ
進ンデ佛國ノ中立的地位ヲ侵スノ意思ハ無キモ今次我方要求ハ軍
事上ノ絕對的必要ニ基クモノナルニ依リ若シ佛側ガ之ヲ容レザル
場合ニハ或ハ形式ニ於テモ中立ヲ侵スコトニナルヤモ知レズ斯ク
ノ如キハ我方ノ最モ好マザル所ナルニ依リ今次申入ヲ爲ス次第ニ
シテ又一九〇七年ノ日佛協定ハ之ニ依テ受ケタル佛印ノ利益ニ對
比シ我方ニハ殆ド對償ナキニ拘ラズ日本ガ之ヲ應諾シタルト同様
ノ精神ヲ以テ今回ハ佛側ニ於テ我方要求ヲ容レラレ度ク右ハ日本

S 1.1.1.0-59

1313

524



八月一日ノ我方第一次申入ニ對スル佛側回答（八月六日松岡大臣「アンリ」大使會談一、日佛第二次會談）

我方申入ノ内容ヲ知リタル佛國政府ハ在佛澤田大使ヲ通シ對戰ノ敗北ニ苦杯ヲ嘗メ不鮮体面ヲ失ヒ居ル佛國ヲ更ニ踏付クルガ如キ今次日本側要求ハ其ノ齟之ヲ受諾シ得ズ其ノ理由ハ日本側要求ノ内容ノ問題ニ非ス形式ノ點ニ在リ即チ佛トシテハ右内容ニ付テハ大体異存ナキモ唯日本側ヨリ押付ケフレタル如キ形式ニセズ相互ノ話合ニ依リ協定ニ到達シタリト云フコトニシ度ク又佛側カ本件ニ關シ日本側ニ求メ度キ對償トシテハ別ニ多クヲ期待セス例ヘバ東京州ニ於ケル日本車ノ駐屯等ハ一時的措置ニ過キササル旨ヲ日本側ニ於テ約シ矣レアルトカ或ハ日佛ノ友好關係ハ日本側モ願念スル所ナルニ依リ今後トモ日本佛印間ノ經濟的的政治的善隣關係ノ増進ヲ希冀スル旨約シ矣レアルトカ兎モ角佛國ノ主權ト面子トヲ尊重シタル形式トスル趣旨ニ於テナフバ逸ニ協定ヲ成立セシ

ガ好シデ爲スモノニ非ズ情勢ガ日本ヲシテ要求セシムルモノナリト説明シ且方今ハ何トモ得休ノ知レヌ專態頻發スル世ノ中ニテ今次日本ノ要求ニ應シタリトテ必スシモ宣戰布告ヲナスモノトモ解スルノ要トカルベシト説キタルニ大使ハ御説明ニハ一應納得セラ

ル點アルモ佛印ニ關スル日本側要求ハ次々ニ増大スルノミニシテ今次ノ要求ヲ容ルレバ更ニ何ヲ要求セラルルヤ測リ難シト述ベ居タルガ兎モ角本國政府ニ取次グベシトテ引取リタリ

メ得ベントテ佛國政府ノ態度ヲ表明シ來レルガ八月六日在京佛大
 使ハ松岡大臣ヲ來訪本國政府ヨリ回訓ニ接シタリトテ附屬第一號
 ノ如キ書物ヲ讀ミ上ケ結局日本側要求ハ之ヲ承諾スルモ其ノ形式
 ニ付テハ佛國側ノ体面ヲ損セザル如キモノトモラレ度ク之カ爲協
 定ノ形式ニ付テハ同大使ト次官トノ間ニ打合ヲ遂グルコトトシ度
 シト述べ大臣ハ右ニ對シ同意ヲ與ヘタリ。尙其ノ際大使ハ日本側
 要求ハ佛國ノ体面ヲ蹂躪スルモノナリトカ或ハ最後通牒的ナリト
 カ繰返シタルニ依リ大臣ヨリ我方ニ於テハ佛國ノ体面ヲ毀損スル
 ガ如キ意向ハ毛頭ナク谷特ニ之ヲ避ケント欲シタレバコソ形ノ上
 ニ於テモ右ノ如キコト無キヲ期スル爲今次甲入ヲ爲シタル次第ナ
 リト説明セリ

政治軍事協定ニ關シ我方ヨリ佛側ニ提示セル第一次交換公文案一
 八月九日及十日外務次官在京佛大使會談
 右松岡大臣、「アンリイ」大使會談ノ結果ニ基キ八月九日外務次
 官ヨリ「アンリイ」大使ノ來訪ヲ求メ附屬第一號及第二號ノ如キ
 政治軍事關係交換公文案ヲ提示シテ大使トノ間ニ左ノ如キ會談行
 ハレタリ

次官、本件我方要求ハ軍事上ノ絶對的必要ニ基クモノニシテ且ツ其
 ノ緊急性ニ鑑ミ能フ限リ速ニ貴方ヨリ右文案ニ異議ナキ旨御
 回答ヲ得度

大使、日本側要求ノ内容漠然タリ、此ノ儘ニテハ「ブテック・チエ
 ツクレー」ヲ渡スニ等シ

次官、要求ノ内容ハ明瞭ナリ、「對支作戰ノ爲」ト明記シアリ、何
 等懸念セラルベキコトナシ

大使、作戰上ノ必要ト云フ名目ニ依リ種々ノ要求ヲ續々持出サレ際

0330

限無キコトトナルベシ、強クテ本國政府へ取次ケト云ハルレバ
 左様致スベキモ政府方此儘ニテハ到底承諾セザルベキコトハ明カナリ
 次官、右ハ領土ノ不侵略ヲ謳ヒ居ラザルコトヲ意味セラルルヤ
 大使、然ラズ、此ノ案文ノ儘ニテハ佛印内ノ何處ニテモ軍隊ヲ通過
 飛行基地ノ使用ヲ要求セラルル危険アリ西貢「カンボヂヤ」
 邊ニモ上陸スルヤモ知レズ、仍テ右地點ヲ明示セラレ度シト
 云フニ在リ

次官、此ノ案文ハ原則ヲ示シタルモノニシテ細目ハ現地交渉ニヨリ
 決定シ得ベシ

大使、細目ヲ現地交渉ニ譲ルヲ好マズ貴案ニ依レバ日本軍ハ種々ノ
 要求ヲ續々持出サレ佛印全部ガ處分セラルルモ致シ方無キコ
 トトナルベシ

次官、「對支作戰ノ爲」ト明記シアリ、我方ニ於テ之ヲ濫用スルノ
 意思無キコトハ云フヲ待タザル所ナリ。

大使、其ノ點ニ付テハ外務大臣モ此ノ前ヨリ云ヒ居ラレ、日本側ニ
 右ノ如キ意思ナキコトハ自分モ了解シ居レリ、然シ實際問題
 トシテ、此ノ儘約束スレバ日本側ガ如何ナル要求ヲ次々ニ持
 出サルルヤ測ラレス、此ノ點ニ付テハ何人モ保證シ得ズ
 就テハ外務大臣ニ本日會談ノ模様ヲ御報告ノ上再考セラレ度
 ク、其ノ結果是非トモ此儘ニテ本國政府ニ請訓シ吳レト云ハ
 ルルナラバ此ノ儘電報スベキモ、其ノ結果ハ政府ハ到底此儘
 ニテハ承諾シ得ザルベシト思考ス(以下經濟問題ニ干スル會談省略)
 次テ翌十日更ニ外務次官ヨリ「アンリー」大使ノ來訪ヲ求メ昨九日
 ノ交渉公文案中「佛領印度支那一トキン」州ヲ通過シ同州内ノ飛
 行場ヲ使用」ト書キ改メタル案文ヲ提示シテ大使トノ問ニ左ノ如キ
 會談行ハレタリ

大使、「トシキシ」州トセラレテモ、佛側トシテハ依然トシテ「ト
 シキシ」州ニ關スル「ブラング」チエツタルヲ發行スルニ等
 シグ、日本軍隊ニ何ヲ爲サレテモ拒否シ得サルコトナルベ
 シ、右ハ「フエア」ニ非ズ、此ノ種要望ヲ持出サルルカラニ
 ハ其ノ内容ヲ今少シ明確ニセラレ度シ

次官、貴大使ノ氣持ハ諒解シ得ルモ、日本軍隊ガ如何ナル地點ヲ通
 過シ又如何ナル飛行場ヲ使用スルヤハ、軍略上ノ機密ニ屬シ
 豫メ言明シ得ズ、此ノ點ハ貴大使ガ如何ニ追究セラルルモ對
 支作戰ノ機密保持上絶対ニ應ジ得ズ、

大使、貴方ハ佛國政府ヲ信用セラレザルヤ、
 次官、本件ハ普通ノ機密事項トハ異リ、軍以外ニハ絕對知ラサレサ
 ルコトナリ、然シ乍ラ日本軍隊ガ佛印ニ入レバ佛國官憲
 ノ協力ヲ得サレバ事ガ違バヌ故自然其ノ際日佛印兩官憲間ニ
 細目ノ話合ガ行ハルルコトトナルヘシ、今貴大使ニ日本軍隊

大使、「右ヲ承知セル後」日本側要求ハ一方的ナリ
 次官、其レハ當然ノコトニシテ、然ルカ故ニ交渉ヲ行ヒ得ル次第ナ
 リ、貴國政府カ本件我方要求ヲ審議セララルルニ當リ特ニ念記
 セラレタキコトアリ、其レハ、我方カ東亞新秩序建設ノ爲非
 當ナル努力ヲ爲シツツアリト云フコトナリ

貴大使ト是レ以上議論スルモ無益ナルニ付兎ニ角本國政府ハ
 我方要望ヲ其ノ儘傳達セラレ度シ

ガ如何ナル地點ヲ通過シ、又如何ナル飛行場ヲ使用スルヤヲ
 申入レ、若シ貴國政府ガ何處ハ可ナリ何處ハ不可ナリ等ト言
 ハルレバ、我軍事行動ヲ不可能ナラシムヘク、其レデハ折角
 佛側ガ主義上我方要望ヲ容レラレタル價值ガ無クナルベシ、
 且主義上應諾セラレタル以上、軍略上ノ機密事項迄モ知ラセ
 ト云ハルルハ、行過ギト云ハサルベカラズ、然シ貴大使ガ飽
 ク迄モ之ヲ知ラセト云ハルレバ、

大使、東亞新秩序ナル語ニ依リ具体的ニ何ヲ意味セラルルヤ
次官、之ヲ明カニスル爲ニハ詳細説明ヲ要スルモ一言以テ云ヘバ

東亞ニ於ケル日本ノ安定的優越的地位 (Stability and

Dominant) 確立スルコトニ在リ、日本ト支那トハ隣

國ニシテ友好關係ニテ進ムノ要アルコトハ御承知ノ通ナルカ、
蔣政權カ存在スル限り之カ障碍タルニ依リ我方トシテハ萬難

ヲ排シテ蔣政權打倒ニ邁進シツツアリ而シテ此ノ努力ニ對シ
佛國ガ協力セラレンコトヲ要望シ居ル次第ナリ、支那事變ヲ

一日モ早ク速ニ處理シ東亞ニ於ケル恒久的平和ヲ確立スルコ
トニハ佛國ニモ異存無カルヘシ、其ノ爲ニハ一日モ速ニ蔣政

權ヲ潰滅セシムルコト必要ニシテ今回我方ハ佛印ニ道ヲ借り
テ之ヲ行ハントシ居ル次第ナリ、若シ蔣政權ニシテ既ニ崩壞

シ居タランニハ、貴方ニ對シ斯カル要求ヲ持出サスシテ濟ミ
タルナルヘキナルモ、蔣政權ハ今猶抵抗ヲ續ケ居ルニ依リ我

大使、(右申出ノ傳達方ヲ承諾セリ)

方トシテハ不本意作ラ右要求ヲ貴方ヘ申入レサルヲ得サル次
第ニシテ此ノ點貴方ニ於テモ特ニ考慮セラレシコトヲ希望ス。

(ト述ベタルニ大使ハ相當納得セル様見受ケタリ、今回ノ我
方要求ハ右ノ如キ事情ニ基クモノニシテ何等佛印ノ領土侵略

等他意アル次第ニ非ス、貴國政府ヘ本件公案文ヲ傳達セラレ
ルニ當リ本官カ只今續々申述ベタル諸點ヲモ併セ傳ヘラレ度

ク、佛國政府ガ大局的見地ヨリ我方要求ヲ其ノ儘承諾セラレ
シコトヲ希望ス、

我 方 第 一 次 交 換 公 文 案 ニ 對 ス ル 佛 國 回 答

(八月十五日 松岡大臣、「アンリイ」大使會談)

八月十五日「アンリイ」大使松岡大臣ヲ來訪、本國政府ノ訓令ニ
基キ右我方第一次交換公文案ニ對シ回答スル次第ナリトテ附屬第
三號ノ如キ書キ物ヲ讀ミ上ゲタル後大臣ト大使トノ間ニ左ノ如キ
會談行ハレタリ

大臣、貴大使ハ先日本大臣ニ對シ佛國ハ原則トシテ日本側要求ヲ應
諾スル旨述ベツレタルニ非ズヤ

大使、日本側要求ノ全部ヲ承諾ストハ云ハズ

大臣、元日確ニ貴大使ヨリ佛國政府ハ佛印ニ關スル日本側軍事的要求
求ハ王義トシテ之ヲ應諾スルニ吝ナラザルモ唯佛國ノ体面ノ
立ツ如キ形式ヲ日本側ニ於テ考慮セラレ度シトノ趣旨ヲ回答
セラレタリト思考ス

大使、其レハ誤解ナリ本使ハ佛國側トシテ承諾シ得ル限度ニ於テ日

本側軍事的要求ハ之ヲ應諾スベシト云フ趣旨ヲ述ベタル續リ
ナリ

又日本側軍事的要求ハ軍隊ノ通過、飛行場ノ使用其ノ他廣汎
ナル便宜供與ニ關スルモノニシテ、之ヲ其ノ儘承諾スルハ日
本ニ對シ白紙手形ヲ渡スニ等シ、佛國側トシテハ先ツ日本側
ヨリ領土保全ニ關スル約束ヲ取付ケ、安心ヲ得タル上日本側
要求中佛國側トシテ承諾シ得ルモノハ之ヲ承諾スル豫取計ヒ度
キ次第ナリ

大臣、其ノ點ニ付テハ、先日本大臣ヨリ今次ノ我方軍事的要求ハ佛
印ノ領土ヲ侵略セントスルガ如キ意圖ニ基クモノニ非ザル次
第ヲ明確ニ申上ゲタル筈ナリ

大使、領土ニ關スル保障ヲ取付ケズ、又日本側要求ノ内容ヲ豫メ明
確ニ限定セザレバ、假令東京州丈ナリトモ一旦日本軍ガ入り
タル後ハ佛印全体ガ日本軍ニ死命ヲ副セラルルコトトナルベ

大臣、我方要求中ニハ「對支作戰ノ爲」ト明記シアリ日本軍隊ガ如何ナル地點ヲ通過スベキヤ等ハ貴方ニ於テモ自ラ分ルベキ等ナリ、從ツテ佛印全部ガ日本軍ニ依リ占領セラルベシ等ノ懸念ハ無用ナリ

大使、

大臣、

然ルニ佛國側ガ本大臣ノ確言ヲ信ゼズ此ノ上遷延的態度ヲ續ケテアル限リ是レ以上話合ヲモ無益ニシテ、且ツ我方ノ軍事的要求ハ急ヲ要スルモノナレバ、話合ヲ打切り我方トシテ必要ナル軍事行動ヲ取ルノ外ナキニ至ルヤモ圖ラズ然レドモ是レ日本政府ノ好マザル所ナルト共ニ日本軍モ之ヲ欲セザルモノナルコトヲ本國政府ニ傳達アリ度シ

日本側要求ニ應ズルトセバ蔣ノ軍隊モ佛印ニ入り來リ佛印ハ日支戦鬪ノ香ト化スベク甚ダ迷惑ナリ

ノ通過ヲ應諾セラレタルトキ日支兩軍ガ佛印内ニ於テ衝突スルガ如キコト必ズシモ無キニ非ルベキハ豫想セラレタル筈ナリ

抑々我方ハ東亞ノ恒久的平和確立ノ障礙タル蔣政權打倒ノ爲萬難ヲ辨シテ進進シツツアリ、而シテ石平和ノ確立ハ佛國ニ取リテモ利益ナルベク從テ其ノ爲ニ必要ナル蔣政權打倒ニ協力ヲ求メ居ル次第ナリ

要スルニ今次我方ノ要求内容ハ佛國側ガ承諾セラルト否トニ拘ラズ、至急之ヲ實行スルノ要有ルコトニハ變リ無キモ、合意ニ基カズンテ右軍事行動ヲ取ルコトハ我方ノ好マザルコトナルニ依リ、貴方トノ話合ニ依リテ目的ヲ達成セントシツツアル次第ナルコトヲ篤ト考慮セラレ、大局的見地ニ立チテ至急我方要望ヲ其儘受諾セラルル様本國政府へ傳達有リ度シ

大使、
(右ヲ諒承シ辭去セリ)

（尙漫談トシテ大臣ヨリ元來佛印領土ノ安全ハ一九〇七年ノ日佛協定ニ依リ長年ニ亘リ事實上保障セフレ來レル次第ニシテ若シ日本ガ右協定ノ締結ニ應ゼザリントセバ佛印ノ領土ハ今日迄ニ如何ナレルヤモ圖ラレズ、然ルニ日本ハ之ガ締結ニ應ジタリ、仍テ今回ハ佛國側ガ我方ノ要求ニ應ズベキ筋合ナリト述ベフレタリ）

ハ我方第一交談公文案ニ對スル佛側第一交談案並ニ我方第二交談公文案（八月二十日松岡大臣、「アンリ」大使會談）
 八月二十日在京佛國大使ハ松岡大臣ヲ來訪、本國政府ノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ附屬條四號ノ書キ物及其ノ趣旨ヲ基礎トスル附屬條五號ノ交換公文案ヲ提示セリ、大臣ハ右ニ付佛國政府及大使ノ努力ヲ謝スルト共ニ佛國側申出ニ付キテハ我國ニ於テ右書キ物及笑文ヲ讀ミテハ上意見ヲ述ブベキ事、今一言致度キハ右ニハ經濟問題モ含マテアルモ軍事問題ハ急ヲ要スルニ付經濟問題ニ先ダテ解決スルコトト致度シ尤モ軍事問題ノ細目ハ現地ニ於テ討議セシメテ可ナリ尙本件協定方式ノ詳細ニ付キテハ次官等ヲシテ貴大使ト本日中ニモ交渉セシメ度シト述ベ尙我方ニ於テ用意セル軍事問題ニ關スル附屬條六號ノ一及二ノ交換公文案ヲ提示シタルニ、佛國大使ハ佛側提案ガ佛國ノ面子ヲ害セズ「フェア」ナル取極メナルコトヲ述ベ居タルガ、更ニ大臣ハ、軍事問題ノ早急解決ノ爲時間ヲ「セーヴ」スル意、經濟問

題ヲ切り離スノ要ヲ力説シ、又佛國案ニ依レバ經濟問題ニ付テハ單ニ日本ノ極東ニ於ケル優越的利益又ハ佛印ニ於テ第三國ニ比シ優越セル地位ヲ日本ニ認ム云々トアルノミニテ我方ノ佛本國待遇要求トハ大ナル距タリアリ若シ佛國側ガ斯カル案ヲ固執セララルニ於テハ交渉ハ再ビ「デツドロツク」ニ陥ルベシ經濟問題ニ付キテハ貴方ヨリ我方ノ佛本國待遇要求ニ出來得ル限リ應ズル環境地交渉方訓令スベキ旨回答セララルノ途モアルベシト思考スルガ、何レニセヨ軍事問題先決ノ要アル旨ヲ主張シ置ケリ

S 1.1.1.0-59

1330

541

我方第三次交換公文案（八月二十日夜大橋次官「アンリー」大使會談）

我方ニ於テハ早速右佛側對案ヲ検討シタル上二十日夜更ニ大橋次官ヨリ「アンリー」大使ノ來訪ヲ求メ西歐亞局長同席ノ下ニ次官ト大使トノ間ニ左ノ如キ會談行ハレタリ

次官、佛國側提案ニハ日佛協定等迄モ持出シ居ラルルガ右協定締

結當時トハ事態一變セル今日斯カルモノヲ持出サルルコト

ハ本件ノ解決ヲ徒ニ紛糾セシムルニ過ギズ

大使、右ニ付テハ寧ロ松岡大臣ヨリ言出サレタルニ依リ之ヲ基礎

トシテ提案セル次第ナリ

次官、大臣ハ議論ノ途中ニ於テ、日本ガ佛印ノ領土ニ對シ侵略的

意圖ヲ有セザルコトハ過去ニ於テ斯カル協定ヲ締結セル精

神ニ鑑ミルモ明カナリトノ點等ヲ示ス爲綱レラレタルニ過

ギズ

S 1.1.1.0-59

1331

542

次官、右ハ大ナル誤解ナリ却テ佛國側ニ於テ遷延策ヲ講ゼントセ
 レレツツアルニ非ズヤトノ疑惑ヲ懷カシム
 我方ハ更ニ其ノ後佛國側ノ希望ヲ汲ミ本件軍事的要求ハ臨
 時的、例外的性質ノモノナルコト、軍事行動ニ伴フ費用ハ
 我方ニ於テ負擔スベキコト、右軍事行動及費用ニ關スル細
 目ニ付テハ現地ノ日佛官憲間ニ極秘打合ヲ行ハシムベキコ
 ト等ノ諸點ヲ今朝大臣ヨリ提示セラレタル我方案文中ニ追
 加シ本件ヲ解決スルノ外ナント考ヘ居レルニ付至急右修正
 案（附屬第七號ノ一及二往翰案及來翰案佛譯文ヲ手交ス）
 ヲ本國政府ニ取次ガレ、政府説得方御盡力アリ度シ

佛國案ニ於テハ軍事問題ハ一切現地交渉ニ譲リ軍隊通過外
 二項目ニ關スル我方要求ニ原則上ノ承認ヲ與ヘ居ラズ此ノ
 點不都合ナリ又便宜供與ヲ佛印ト支那間ノ國境地帯ニ限定
 シ居ル意味如何
 大使、東京州ト云フ如キ廣汎ナル地據ニ付漠然ト便宜供與ヲ約ス
 ルガ如キコトハ不可能ナリ依テ左程狹カラザルモ國境ニ沿
 フ地帯ニ限定セル次第ナリ
 日本軍ガ使用スベキ航空基地ニ於ケル警備部隊ノ駐屯ハ之
 ヲ承認シ得ズ
 次官、斯クテハ佛國側ニ依ル便宜供與ハ殆ト意味無キコトトナル
 旁々我方案ニ依ルコトトシ度シ又經濟問題ハ別途處理シ度
 シ
 大使、佛國側提案ハ日本側言分ヲ參酌シテ作成セルモノナレバ
 日佛協定ヲ引用スルノ要アリ又經濟問題モ佛案ニ多少文句

佛側ニ於テ此ノ上解決ヲ遷延セララルルニ於テハ佛印ニ於テ
不測ノ事件ヲ生ズルガ如キコトアルトモ實ハ佛側ニ在リ
大使、兎ニ角御申出ノ次第ハ本國政府へ傳達スベシ

七我方ヨリ佛側ニ内示セル軍事上ノ具体的要求事項（八月二十一日
夜西歐亞局長「アンリー」大使會談）二十一日夜歐亞局長在京佛
國大使ヲ往訪、本來軍事上ノ機密事項ヲ通報スルコトハ我方ノ欲
セサル所ナルモ佛國側カ我方軍事的要求ニ付我方ノ想像スル以上
ノ疑惑ヲ有セラルルコトカ二十日夜ノ會談ニ於テ觀察セラレタル
ニ依リ更ニ我軍當局ト協議セル結果佛國側ノ右疑惑ヲ解キ本件ノ
迅速ナル解決ヲ圖ル爲我方要求内容ノ輪廓ヲ特ニ佛側へ極秘内示
スルコトトナレリトテ左ノ如キ物ヲ手交シ之ニテ本件ニ關シ我方
トシテ爲シ得ルコトハ凡テヲ爲シ盡セルモノナルニ依リ此ノ上ハ
貴大使ヨリ右ヲ本國政府へ御傳達相成リ速ニ我方要求カ其ノ儘受
諾セラレンコトヲ希望スルノミナリト述ヘタルニ大使ハ右ヲ本國
政府へ傳達スベキ旨約シタリ

(イ) 日本陸海軍ノ使用スベキ「トンキン」州内飛行場ノ数

差當リ「ハノイ」 Hanoi 「フランチオン」 Purlang Thuong

及「フトウ」 Pautho 附近各一箇所ヲ常駐飛行場トシテ使用

ス但シ状況ニ依リテハ印支國境ニ近接セル他ノ飛行場ヲ使用スル

コトアルヘシ

(ロ) 「トンキン」州内ニ配置セラルヘキ日本軍兵力ノ總數

前記飛行場ノ整備ニ要スル部隊、右飛行場ヲ使用スル飛行部隊並

ニ右部隊及現ニ印支國境附近支那領内ニ在ル日本部隊ニ對スル補

給品等ノ輸送ニ關スル任務(右輸送ノ整備ヲ含ム)ニ從事スル部

隊陸海軍計五、六千ヲ越ヘス

(ハ) 日本軍隊ノ「トンキン」州内通過解路

對支作戦ノ必要ニ應ジ「ハイフオン」 Haiphong 「ハノイ」

Hanoi 「ラオカイ」 Lao Kay ノ線ニ沿フ地帶並ニ「ハ

ノイ」 Hanoi 「ランソン」 Langson ノ線ニ沿フ地帶ヲ

日本軍隊通過ノ爲使用スルコトアルヘシ

右通過部隊ノ兵力(右部隊及之ニ對スル補給品等ノ輸送並ニ右輸

送ノ警衛ニ要スル部隊ノ兵力ヲ含ム)ハ前項(ロ)以外トシ目下之ヲ

限定シ得ス

註一 日本軍隊又ハ補給品輸送ノ爲若シタハ輸送船警備ノ爲帝國海

軍艦艇若干隻ヲ「ハイフオン」 Haiphong ニ出入セシムル

コトアルヘシ

註二 専用電信施設(無線ヲ主トス)ハ當然右日本陸海軍ニ伴フモノ

トス

依テ軍側トモ協議ノ結果本件ノ迅速解決ヲ圖ル爲之ヲ承諾スルコトニ決シ右佛側來翰案ニ對スル附屬第九號ノ如キ我方往翰案ヲ同日夜歐亞局長ヨリ大使ニ示セル處大使之ニ異議ナク爲念本國へ請訓セリ

十一「交換公文案ニ關スル佛側第二次對案（八月二十五日大橋次官「アンリ」大使會談）」
 八月二十五日「アンリ」大使大橋次官ヲ來訪本國ノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ附屬第八號ノ如キ軍事、政治並經濟問題ニ關スル佛側來翰案ヲ提示シテ我方ノ承諾ヲ求メタルニ依リ次官ハ右案ニハ我軍軍的要求タル三項目（一）日本軍ヲ使用スヘキ東京州内飛行場（二）右ヲ使用スル飛行部隊、整備部隊並ニ右諸部隊及現ニ國境附近支那領内ニ在ル日本部隊ニ對スル補給部隊等東京州内ニ配備ヲ要スル日本軍兵隊（三）部隊ノ通貨經路）ヲ承諾スル旨ノ明記ナキヲ指摘シ右明記方ヲ主張シタルモ大使ハ右ノ公文ニ明記スルコトハ佛國ノ体面上不可能ナルモ現地交渉ニ於テ事實上之ヲ承認スルコトナリ居レル旨明言シ其ノ儘妥結方面執セリ
 尙大使ハ交渉成立後ノ取極ハ極秘トシ發表セサルコトトシタシト述ヘ次官ハ之ニ同意セリ

十二、八月三十日公文交渉及同交換公文補足ノ爲ノ松岡大臣ヨリ「アンリー」大使ヘノ口頭申入右二十五日ノ大橋「アンリー」會談ノ結果ニ基キ八月三十日外務大臣官邸ニ於テ松岡大臣ト「アンリー」大使トノ間ニ附屬第十號ノ一及二ノ如キ公文ノ交渉ヲ見送餘曲折ヲ經タル本件日佛交渉モ交渉開始以來二ヶ月ヲ以テ茲ニ妥結ヲ見ルニ至レリ

尙右公文交渉ト同時ニ松岡大臣ヨリ我方軍事的要求ニ關スル佛印領地取極メノ至急妥結ヲ促進スル爲「アンリー」大使ニ對シ左ノ如キ口頭申入ヲ爲セリ

「本貴翰中ニハ佛側ハ八月二十一日西歐亞局長ヨリ貴使ニ具體的內容ノ概略ヲ内示セル我方軍事的要求ヲ受諾スヘキ旨ノ明記ナキ處貴使ハ去ル二十五日大橋次官ニ對シ佛國トシテハ体面上右ノ旨ヲ文章ニ明記シ得サルモ實際上右要求ノ何レヲモ受諾スルコトニナリ居ル旨明言セラレシ趣ナルカ帝國政府トシテハ佛國政府ノ右言

明ニ信賴シ本貴翰ヲ以テ御申越ノ次第ヲ受諾スルモノナリ

「帝國政府ハ之ニテ我軍事的要求ハ佛印ニ於テ直ニ實現セラルヘキモノト思考スルモノナルカ日本軍ハ階級ノ情勢上右要求ノ實現ヲ急キ居ル次第ニシテ軍中央ニ於テハ佛印經由將政權向物資輸送停止狀況觀察委員長タル西原少將ヲシテ出先陸海軍最高指揮官代表ヲ蒙ネマムルコトトシ同少將ニ對シ河内ニ於テ佛國領軍司令官トノ間ニ右我方要望實現ノ爲ノ現地取極ヲ成ルヘク速カニ、出來得レハ明日中ニ成立セシムル様訓令セリ依テ佛國側ニ於テモ佛印總督ニ對シ西歐亞局長ヨリ貴使ニ内示セル我方軍事的要求ハ實質的ニ受諾濟ノモノナルコトヲ通報シ大至急右取極ヲ成立セシムル様訓令方取計ハレ度シ

去第一次現地協定交渉

八月三十日西原少將ハ前記松岡、「アンリ」協定ニ基キ佛印總督ヲ往訪軍事交渉開始方ヲ提議シタル處同總督ハ未ダ本國政府ヨリ訓令ナキヲ理由トシ之ニ應ゼズ、仍テ同少將ハ九月二日夕刻迄ニ佛側ガ我方要求ニ應セサル場合ニ於テハ我方監視員及在留邦人ハ一齊引揚ヲ決行スヘシト決意シ右ニ付總領事館側ノ了解ヲ表シ來リ、翌三十一日正午同少將ハ再ヒ總督ヲ往訪セルガ尙交渉打開ノ余地ヲ見出シ得ザリシ趣ナリ、我方トシテハ交渉即時開始ヲ必要トスル作戦上及外交上諸般ノ事情アルヲ以テ本省ヨリハ在佛澤田大使ニ對シ佛本國政府ヨリ佛印總督ニ對シ至急現地交渉ヲ開始スヘキ旨訓令方督促セシメタリ（河内來電十五、九、二日第一九六號、佛往電十五、九、二日第四〇一號）次テ九月二日夜西原少將ハ重ネテ總督ヲ往訪セル處同總督ハ同日夕ニ至リ初メテ本國政府ヨリ訓令接到セルモ右ハ長文且解釋不納ノ個所多キニ付翌三日朝迄交渉ヲ延期セラレ度ト述ベタ

6 1.1.1.0-59

1342

553

リ、右ニ對シ同少將ハ即時交渉ノ開始方ヲ要求シタルモ同總督之ニ應セザリシヲ以テ豫テ用意セル邦人引揚及九月五日以降軍進駐スベキ旨ノ通告文ヲ手交セシ處同總督ハ一時間以内ニ何等回答スベキ旨述ベタルニ依リ同少將ハ一時引取リタルガ同夜十時半ニ至リ同總督ヨリ本國政府ヨリノ訓令ノ内容ハ我方現地協定案ト相當相違シ居レリトテ修正方主張シ三日ヨリ交渉ヲ開始シ度キ旨通報越セリ、右ノ如キ情況ノ下ニ交渉ヲ開始セバ到底短時日ノ間ニ妥結ニ達シ得スト判斷シタル同少將ハ即座ニ總督ニ對シ南支派遣日本軍最高指揮官ハ日本軍ヲ九月五日以降佛印内ニ進駐スルコトニ決定セル旨ヲ申入ルルト共ニ總領事館側ニモ右事情ヲ通報越タルヲ以テ鈴木總領事ハ不取敢四日海防入港ノ盤谷丸及西貢入港ノ西貢丸ヲ夫々待機セシメ引揚準備ノ手配ヲナセリ（河内來電九、三日第一九七號、第一九八號、河内往電九、三日第二〇九號）斯クテハ切角兩國政府ノ努力モ一朝ニシテ水泡ニ歸スベキ事態ナルヲ以テ東京ニ於テハ再ヒ在佛澤田大

6 1.1.1.0-59

1343

554

(別紙附屬第十一號)ノ調印ヲ見ルニ至レリ(河内來電九、四日第二〇〇號、九、五日第二〇一號、佛往電九、七日第四一號)

使ニ對シ佛本國政府ヨリ佛印總督ニ對シ我方要求ヲ容ルル様訓令方
說得セシメルト共ニ(佛往電十五、九、三日第四〇五號、佛來電九、
四日第七一四號九、五日第七一五號、第七一七號)三日在京佛大使
ガ大橋次官ヲ來訪シタル際次官ヨリモ至急現地取極ヲ成立セシムル
様本國政府ヲシテ佛印總督ニ訓令方取計ハレ度キ旨要求セル處向大
使モ之ヲ承諾シタリ(佛往電九、三日第四〇六號)
一方西原少將ハ三日午前十時佛印軍司令官ト會見シタル處同司令官
ハ作夜「ヴィシー」政府ニ對シ交渉決裂ヲ電報シタルニ付最早自分
トシテハ交渉ノ全權ヲ有セズ且ツ目下對案作成中ナルヲ以テ本件ニ
關シ總督ト會見アリ度キ旨述べタルニ依リ右ヲ待チ居タル處右對案
ハ同日夕刻漸ク送付シ越シ、依テ西原少將ハ改メテ司令官ニ會見ヲ
申込ミタル處同司令官ヨリ疲勞ヲ理由トシテ四日午前九時迄右交渉
ノ延期方返答アリタルガ(河内來電九、四日第一九九號)翌四日午
后八時ニ至リ西原少將ト「マルタン」司令官トノ間ニ漸ク現地協定

十四 第二次現地細目協定交渉
 九月四日調印ヲ見タル軍事協定ニ關シテハ大体六日中ニ細目協定成立ノ見込ナリシガ同日朝南支國境諒山方面ニ日本軍一部隊ノ越境事件ノ發生ヲ見タル處翌七日總督ハ西原少將ニ對シ協定違反ヲ理由トシテ交渉ノ一應打切方申出テ來レリ、右ニ關シ西原少將ヨリ右越境事件ハ未タ軍事協定ノ成立ヲ知ラザル一前線部隊ノ獨斷ニ基クモノニシテ決シテ日本軍憲ノ意思ニ非サル旨縷々聲明シタルモ先方ノ態度更ニ變化ナク一ニ交渉遷延ニ努ムルガ如ク認メラレタリ（河内來電九・八日第二〇五號、第二〇六號、壽府往電九・八日第八四號）仍テ中央ニ於テモ在佛澤田大使ニ對シ本件解決ガ之以上遷延スル時ハ不測ノ事態ヲ惹起スルノ虞アルニ付佛本國政府ヨリ佛印總督ハ急速妥結方訓令アル様重ネテ佛側ニ申入レンメタリ（佛往電九・十日第四一七號、佛來電九・十二日第七三六號）
 其後十一日在京佛大使ハ大橋次官ヲ來訪日本軍進駐ノ場合之ニ呼應シ「タイ」國軍モ亦佛印ニ進入スルヤノ情報ヲ得居ル處斯クテハ益々收拾シ難キ事態トナルニ付日本政府ヨリ「タイ」側ニ右企圖ヲ中止スル様斡旋方申出來リタルニ依リ翌十二日次官ハ佛大使ノ來訪ヲ求メ右ハ佛「タイ」間ノ問題ニシテ我方ノ關知スル所ニ非ズ今同ノ佛側申出モ一ニ從來ノ佛側遷延策ニ外ナラザル旨述ベ又石澤歐三課長ヨリモ佛大使館「ダンデラン」書記官ニ對シ口頭ヲ以テ重ネテ右ノ趣旨ヲ申入レタリ。（河内、盤谷往電九・十一日合第二〇一八號、盤谷往電九・十二日第一九四號、九・十一日次官佛大使會談要領、九・十二日、歐三課長佛書記官電話要領、九・十二日次官佛大使會談要領）
 其後十三日西原少將ハ總督ト會見セル處總督ハ本國政府ヨリ交渉繼續スヘントノ訓令アリタルヲ以テ佛印軍司令部ニ於テモ目下銳意細目ニ付研究中ナリト述ベタルガ爾來交渉ハ進捗セズ（河内來電九・十四日第二一二號）東京ニ於テハ十六日佛大使ハ次官ヲ來訪本件交

其後十一日在京佛大使ハ大橋次官ヲ來訪日本軍進駐ノ場合之ニ呼應シ「タイ」國軍モ亦佛印ニ進入スルヤノ情報ヲ得居ル處斯クテハ益々收拾シ難キ事態トナルニ付日本政府ヨリ「タイ」側ニ右企圖ヲ中止スル様斡旋方申出來リタルニ依リ翌十二日次官ハ佛大使ノ來訪ヲ求メ右ハ佛「タイ」間ノ問題ニシテ我方ノ關知スル所ニ非ズ今同ノ佛側申出モ一ニ從來ノ佛側遷延策ニ外ナラザル旨述ベ又石澤歐三課長ヨリモ佛大使館「ダンデラン」書記官ニ對シ口頭ヲ以テ重ネテ右ノ趣旨ヲ申入レタリ。（河内、盤谷往電九・十一日合第二〇一八號、盤谷往電九・十二日第一九四號、九・十一日次官佛大使會談要領、九・十二日、歐三課長佛書記官電話要領、九・十二日次官佛大使會談要領）
 其後十三日西原少將ハ總督ト會見セル處總督ハ本國政府ヨリ交渉繼續スヘントノ訓令アリタルヲ以テ佛印軍司令部ニ於テモ目下銳意細目ニ付研究中ナリト述ベタルガ爾來交渉ハ進捗セズ（河内來電九・十四日第二一二號）東京ニ於テハ十六日佛大使ハ次官ヲ來訪本件交

少將佛印側對監視團全於二十日河内ヲ出發スベキ旨ヲ通告
 シ東京ニ於テ十九日次官ヨリ佛大使ニ對シ我軍ハ九月二十日
 時ヲ期シ細目協定成否ヲ問ハス隨時東京州進駐ヲ實施スベキ旨通告
 セリ河内來電九・二十日第二〇號、河内往電九・十九日第三
 六號、壽府往電九・十九日第八七號、米、一、タイ、外八公館宛往電
 九・十九日合第二〇八〇號、佛往電九・十九日第四三三號、同日現
 地彼我間ニ於テモ數次折衝行ハレタルガ効果カク河内方面在留民及
 監視團ノ大部ハ海防ニ至リ八海丸及「スラバヤ」丸ニ乘船シ西貢方
 面在留民モ西貢港「アリソナ」丸ニ乘船セリ河内來電九・二十日
 第二二三號、九・二十一日河内海軍經由電、二十三日正午ヲ期シ右
 引揚船ガ夫々海口ニ向テ出帆スルヤ鎮南關方面ノ我軍ハ直ニ進駐ハ
 行動ヲ開始スル處同日午後三時半ニ至リ先方モ急轉妥協的態度ニ出
 テ來リ遂ニ細目協定別紙附屬第十二號ヲ調印シ見タリ九・二十三
 日河内海軍經由電九・二十三日八海丸來電、海口來電九・二十三日

涉ノ遲滯ハ日本側ノ責任ナルコト及「タイ」ノ案動ハ日本側ヲ背後
 ニシテ事等ヲ再々述ハタルニ依リ次官ハ右ヲ反駁シタル上現地ノ情
 況ハ最早猶豫シ難キ事態トナリ此儘ニテハ我軍ハ細目協定ヲ俟タズ
 隨時進駐ヲ開始スベキ事知レザルヲ以テ佛國政府ハ直ニ佛印當局
 ニ對シ速カニ細目協定締結方訓令アリ度ヲ旨申入ルベシ佛、河内
 往電九・十六日合第二〇五七號、十七日佛印總督及軍司令官ヨリ我
 方要求ニ大体同意ナル旨述ベ來リタルガ我方ニ於テハ協定成立ノ上
 日本軍ガ平和進駐スル場合ニ於テモ佛印軍隊下ノ間ニ相當ノ衝突ハ
 免レザルニ付在留民全部ニ對シテハ不取敢ニ十日引揚ノ予定ヲ以テ
 待機セシムルコトホセリ河内來電九・十八日第三一五號、第三一
 六號、第三一七號、第三一九號、河内往電九・十八日第三二九號、
 第三三三號、第三三七號、第三四〇號、西貢來電九・二十日第八一
 號、翌十八日佛印軍司令官ヨリ回答アリタルガ彼我双方ノ言分ニ相
 當ノ開キアリ之上交渉ヲ重クモ効果ナシト認メタルヲ以テ西原

十五 在留邦人引揚ノ経緯

日、佛印交渉ノ逼迫セル事態ニ鑑ミ豫テ立退準備中ナリシ處鈴木
 在河内總領事ハ十八日全在留民ニ對シ引揚ノ内命ヲ發シタルガ一
 方佛印總督ニ對シ引揚ニ伴フ生命財産ノ保護方ニ付同意ヲ得タリ
 在河内總領事館管内在留民ハ二十日午前七時特別列車ニテ海防ニ
 赴キ正午八海丸(主トシテ老幼婦女子)及「スラバヤ」丸(主ト
 シテ壯年男子)ニ夫々乗船待機セシメ、又在西貢領事館管内在留
 民モ同日西貢ニテ「アリゾナ」丸ニ乗船セシメタリ(河内來電九
 十六日第二一三號、九・十八日第二一七號、九・十九日第二一九
 號、西貢來電九・二十日第八〇號、第八一號、河内往電九・十八
 日第二二九號、第二三三號、九・十九日第二三七號)

其後引揚ノ決行ニ付キ種々協議ヲ進メタルガ二十二日午前十時八
 海丸及「スラバヤ」丸ハ海口ニ向テ出發セシメ、「アリゾナ」丸
 ハ二十日西貢ヲ出帆シタリ(九・二十一日河内海軍經由來電、九

第五五號、英、米外十一公館宛往電九・二十二日合第五一三五號、
 佛往電九・二十二日第四二九號)

其後二十四日軍艦川内艦止ニ於テ西原少將ト佛印軍司令官代表者間
 軍事協定ニ關スル最終的取極成立シ派遣部隊ノ大部分ハ二十五日
 海防ニ入港二十六日上陸ノコトトナレリ(九・二十四日鈴木總領事
 發海軍經由電)

厚生宛往信九・二十六日歐三合第四三六六號、鐵道宛往信歐三第一三五號、九・二十八日八海丸「アリゾナ」丸往電、九・二十九日「アリゾナ」丸來電、九・二十九、九・三十日長崎浦部副領事來電、十月一日門司浦部副領事往電、鐵道來信十・一日連第一一八七號、朝鮮宛往電十・一日第四三號、十・一日長崎渡邊副領事來電、十・二日神戶浦部副領事來電)

一方鈴木總領事一行ハ二十八日海防着二十九日河内ニ歸邊總領事館事務ヲ再開シ、且歸朝セル西貢領事館員モ再ビ西貢ニ引返シ十月二十八日領事館事務ヲ正式ニ再開セリ(河内來電九・二十九日九・三十日第二二六號、十・一日第二二八號、河内往電十・九日第二六〇號、十・十日第二六七號、河内來電十・二十三日第二四八號、西貢來電十・二十九日第八三號第八四號)。

二十二日河内八海丸來電、九・二十一日西貢「アリゾナ」丸電、九・二十一日河内海軍經由往電、河内往電九・二十一日第三四〇號)

河内總領事館員全部及在留民計約三百名ハ八海丸「スラバヤ」丸ニ分乘二十三日正午海口ニ入港、西貢領事館員及在留民計一一七名二十四日午后四時海口ニ入港、夫々中央及軍側トモ協議ノ上二十五日總領事及館員ノ一部ハ「スラバヤ」丸ニテ海防ニ引返スコトトナリ、八海丸ハ長崎ニ向テ「アリゾナ」丸ハ基隆經由門司ニ向ケ出帆セリ(海口來電九・二十三日第一五五號、九・二十五日第一五七號、第一五八號、第一六一號、第一六二號、海口往電九・二十四日第九八號)

八海丸ハ九月三十日長崎入港、又「アリゾナ」丸ハ十月二日神戸ニ入港引揚事務ヲ完了セル處右ニ先チ右引揚民ノ簡易通關並ニ便宜供與方ニ關シテハ夫々關係當局ニ依頼シ置キタリ(大藏、内務

以書翰啓上致候陳者本大臣ハ日本國政府ハ日本國佛領印度支那間ノ
 友好善隣關係ノ増進ヲ希望シ右ノ爲其ノ最善ヲ盡スベキ處佛國政府
 ニ於テモ東亞ニ於ケル平和ノ速カナル克復及新秩序ノ建設ニ付協力
 スルノ精神ヲ以テ對支作戰ノ爲派遣セラルベキ日本國軍カ佛領印度
 支那「トンキン」州ヲ通過シ、同州内ノ飛行場ヲ使用（之ニ伴フ地
 上警備兵力ノ駐屯ヲ含ム）スベキコトヲ承認セラレ且右日本國軍ノ
 武器彈藥其ノ他ノ物資輸送ニ付充分ナル便宜ヲ提供セラレンコトヲ
 要望スル旨申進スルノ光榮ヲ有シ候
 右申進旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

(附屬第一號)

交換公文(案) (往翰)

附屬書類

Monsieur L'Ambassadeur,

J'ai l'honneur de faire connaître à Votre Excellence que le Gouvernement Impérial soucieux de consolider les relations amicales et les rapports de bon voisinage entre le Japon et l'Indo-Chine française, est prêt à consacrer tous ses efforts pour réaliser ce but.

D'autre part, le Gouvernement Impérial attacherait du prix à ce que le Gouvernement français, dans l'esprit de collaboration au prompt rétablissement de la paix et à l'ordre nouveau en Asie de l'Est, autorise, aux armées japonaises en expédition pour les opérations contre la Chine, le passage à travers le territoire tonkinois de l'Indochine ainsi que l'usage des aérodromes dans ledit territoire (y compris le stationnement des gardes militaires) et leur fournit toutes les facilités de transport des armes, munitions de guerre et autres.

Veillez agréer, Monsieur l'Ambassadeur, les assurances de ma très haute considération.

(附屬第二號)

交換公文(案)(來翰)

以書翰啓上致候陳者本日附貴翰ヲ以テ左ノ通御申越相成敬承致候
 以書翰啓上致候陳者本大臣ハ日本國政府ハ日本國佛領印度支那間
 ノ友好善隣關係ノ増進ヲ希望シ右ノ爲其ノ最善ヲ盡スベキ處佛國
 政府ニ於テモ東亞ニ於ケル平和ノ速カナル克復及新秩序ノ建設ニ
 付協力スルノ精神ヲ以テ對支作戰ノ爲派遣セラレベキ日本國軍ガ
 佛領印度支那「トシキン」州ヲ通過シ、同州内ノ飛行場ヲ使用之
 且伴フ地上警備兵力ノ駐屯ヲ含ム「ス」ベキコトヲ承認セラレ且右
 日本國軍ノ武器彈藥其ノ他ノ物資輸送ニ付充分ナル便宜ヲ提供セ
 ラレシコトヲ要望スル旨申進スルノ光榮ヲ有シ候
 本使ハ本國政府ノ訓令ニ基キ佛國政府ハ右貴翰中ニ述ヘラレタル日
 本國政府ノ友好的精神ノ表示ヲ了承シ前記日本國政府ノ要望ヲ承諾
 スル旨回答スルノ光榮ヲ有シ候
 右回答申進旁本使ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

Monsieur le Ministre,

J'ai l'honneur d'accuser réception à votre Excellence de sa lettre en date de ce jour, dont le contenu est suivant:

"J'ai l'honneur de faire connaître à votre Excellence que le Gouvernement Impérial, soucieux de consolider les relations amicales et les rapports de bon voisinage entre le Japon et l'Indo-Chine française, est prêt à consacrer tous ses efforts pour réaliser ce but. D'autre part, le Gouvernement Impérial attacheait du prix à ce que le Gouvernement français, dans l'esprit de collaboration au prompt rétablissement de la paix et à l'ordre nouveau en Asie de l'Est, autorise, aux armées Japonaises en expédition pour les opérations contre la Chine, le passage à travers le territoire tonkinois de l'Indochine ainsi que l'usage des aérodromes dans le dit territoire (y compris le stationnement des gardes militaires) et leur fournit toutes les facilités de transport des armes, munitions de guerre et autres."

J'ai l'honneur de vous informer, selon les instructions
de

S 1.1.1.0-59

1358

569

de mon Gouvernement, que le Gouvernement français a pris acte de l'expression des intentions amicales du Gouvernement japonais qui sont manifestées dans ladite lettre et qu'il est prêt à convenir aux désirs de votre Gouvernement.

Veillez agréer, Monsieur l'Ambassadeur, les assurances de ma très haute considération.

S 1.1.1.0-59

1359

570

佛印問題ニ關シ八月十五日「アンリ」大使ヨリ
松岡大臣ニ手交セル「メモ」假譯(修正済)

佛國大使ハ(日本)外務次官ガ最近提出セラレタル要求ヲ本國政
府ニ傳達シタルガ佛國政府ハ本問題ニ付左記ノ如キ通報ヲ(日本
外務大臣ニ爲スベキ旨佛國大使ニ訓令越セリ

記

佛國政府ハ兩國ノ利益ノ爲重要ニシテ且ツ其ノ福祉及權威ニ反セ
ザル問題ヲ處理スベキ交渉ヲ開始シ度シトノ帝國政府ノ希望ヲ滿
足ヲ以テ了承セリ

佛國政府ハ同國政府ガ一九三七年末以來日本ニ對スル友好的精神
ヲ以テ何等ノ代償ヲモ得ルコトナク極メテ重要ナル「コンセツシ
ョン」ヲ日本ニ與ヘ來タルコトガ茲ニ想起セラレンコトヲ希望
ス即チ佛國ハ支那向戰爭材料及軍需品ノ「トキン」州經由輸送
ヲ禁絶シ來レル處右ハ日支間ニ戰爭狀態ノ宣言無ク且斯ノ如キ禁

絶ハ正式ノ諸協定ニ違反スベキモノナルニモ拘ハラズ實行セラレ
タルモノナリ其ノ後佛國政府ハ日本ノ新ナル要求ニ基キ支那向輸
送禁絶品中ニ他ノ物資及商品ヲモ包含セシメ更ニ其ノ(佛印)國
境ヲ完全ニ閉鎖スルコトヲ承諾シ最後ニハ佛國官憲ガ所定ノ措置
ヲ執リタルヤヲ調査スル爲日本側監視委員ガ現地ニ赴クコトヲモ
承認シタル次第ナリ

友誼及好意ヲ證スル凡テ是等ノ證左ニ基キ佛國政府ハ帝國政府ガ
他ノ一切ノ交渉ニ先立チ印度支那ノ現状及領土保全竝ニ極東ニ於
ケル佛國ノ他ノ利益ノ尊重ヲ約セラレンコトヲ要求ス右ニ對シ佛
國政府ハ世界ノ此ノ方面ニ於ケル日本ノ利益ノ特別ノ重要性ヲ認
ムベシ佛國政府ノ見解ニ依レバ兩國ノ利益ハ完全ニ調和スルコト
ヲ得ルモノニシテ右ハ雙方ニ對シ最大ノ利益ナリ松岡閣下ハ去ル
七月二十六日「アルセーヌ・アンリ」氏トノ會談中印度支那ノ
ミナラズ全支那ニ及ビ、且滿洲國ニモ適用セラレ得ベキ日佛經濟

提携ヲ考慮シ居ラルル旨述ベラレタル處佛國政府ガ右會談中ニ據
 據セラレタル松岡閣下ノ見解ニ納得スル今一ツノ理由ハ右ノ點ニ
 存ス
 兎モ角佛國ガ極東ニ於ケル日本ノ利益ノ特別ノ重要性ヲ認ムルコ
 トノ第一ノ結果ハ印度支那ト日本間ノ緊密ナル經濟提携ノ成立ト
 シテ現ハレ得ベキモノナリ
 佛國政府ハ如上ノ宣言ガ交換セラレザル限り效果アル交渉ハ行ハ
 レ得ズト思考ス殊ニ軍事的要求ハ帝國政府ガ印度支那ニ對スル佛
 國ノ主權竝ニ其ノ領土保全ヲ正式ニ承認セラレタル上始メテ之ヲ
 検討セント欲スルモノナリ

S 1.1.1.0-59

1362

573

L'Ambassadeur de France a transmis à son Gouvernement les demandes que Monsieur le Vice-Ministre des Affaires Etrangères lui a récemment présentées. Le Gouvernement Français l'a chargé de faire à ce sujet à Son Excellence le Ministre des Affaires Etrangères la communication suivante:

C'est avec satisfaction que le Gouvernement Français a pris note du désir que le Gouvernement Impérial a manifesté de voir s'ouvrir des négociations où l'on traiterait de questions importantes pour les intérêts des deux pays et qui ne seraient contraires ni à leur honneur ni à leur dignité.

Il désire rappeler ici que depuis la fin de l'année 1937 la France, dans un esprit amical pour le Japon, lui a consenti sans aucune contrepartie des concessions très importantes. C'est ainsi qu'Elle a interdit le transit du matériel de guerre et des munitions à travers le territoire du Tonkin à destination de la Chine; cela quoique l'état de guerre n'ait pas été déclaré entre la Chine et le Japon et même quoique une pareille interdiction contrevient à des conventions formelles. Depuis, Elle a, sur de nouvelles demandes du Japon, compris d'autres matériels et

d'autres

d'autres marchandises dans l'interdiction de transit vers la Chine. Elle a même admis de fermer complètement sa frontière. Enfin la France a accepté qu'une commission de contrôle japonaise soit autorisée à aller sur place constater que les autorités françaises avaient bien pris les mesures dont on avait convenu.

En s'appuyant sur toutes ces preuves d'amitié et de bon vouloir le Gouvernement Français demande qu'avant toute autre négociation le Gouvernement Impérial s'engage à respecter le statut actuel et l'intégrité territoriale de l'Indo-Chine ainsi que les autres intérêts français en Extrême-Orient. De son côté le Gouvernement Français reconnaît l'importance particulière des intérêts du Japon dans cette partie du monde. Les intérêts des deux pays semblent au Gouvernement Français pouvoir parfaitement se concilier et cela pour le plus grand avantage des deux parties. Il voit une raison de plus d'en être persuadé dans l'exposé de ses vues que Son Excellence Monsieur Matsuoka a bien voulu faire à Monsieur Arsène-Henry au cours de leur entrevue du 26 Juillet dernier lorsqu'il lui a dit qu'il envisagerait volontiers une entente économique entre le

Japon

Japon et la France qui non seulement comprendrait l'Indo-Chine mais encore s'étendrait à toute la Chine et pourrait même s'appliquer au Mandchoukouo.

En tout cas la première conséquence de la reconnaissance par la France de l'importance particulière des intérêts du Japon en Extrême-Orient pourrait être l'établissement d'un accord économique étroit entre l'Indochine et le Japon.

Le Gouvernement Français estime qu'une négociation ne pourra être ouverte avec fruit que lorsque les déclarations dont il est parlé plus haut auront été échangées. Il désire notamment n'examiner les demandes d'ordre militaire qu'après la reconnaissance formelle par le Gouvernement Impérial de la souveraineté de la France sur l'Indochine et de l'intégrité territoriale de celle-ci.

(附屬第四號)

佛印政治軍事問題ニ關シ八月二十日在京佛大使
ヨリ松岡大臣ニ手交セル「メモ」假譯

佛國政府ハ外務大臣閣下ガ駐日佛國大使ヲ通ジテ與ヘラシタル左ノ
如キ保障ヲ了承スルコトヲ大イニ満足ス

松岡閣下ハ日本ハ一九〇七年六月十日ノ「協約」締結以來其ノ取リ
來ル政策ニ依然忠實タランコトヲ欲スル旨言明セラレタリ右政策
ハ右協約ハ本文ニ從ヒ亞細亞大陸ニ於ケル兩締結國ノ地位及領土權
ノ維持ヲ基礎トスルモノナリ

松岡閣下ハ日本ハ日本ガ佛國政府ニ要求スル軍事上ノ便宜ヲ交渉ニ
依ツテ取極メ解決セント欲スル旨言明セラレタリ右要求ハ日本ハ蔣
介石政府間ノ紛争解決ヲ唯一ノ目的トスルモノニシテ右解決ガ達成
セラレタル時ハ消滅シ且又印度支那及支那間國境ニ限ラカベキモノ

ナリ

從ツテ佛國政府ハ帝國政府ガ一九〇七年六月十日ノ協約ニ對シ結果
スル諸保障及特ニ印度支那ニ對スル佛國主權ノ承認ヲ佛國政府ニ對
シ確認スルコトヲ困難トセザルベシト思考ス

右確認ニシテ佛國政府ニ與ウルルニ於テハ佛國政府ハ極東ニ於ケル
日本ノ軍事上竝ニ經濟上ノ支配的利益ヲ承認スルノ用意アリ
前項末尾ニ關シテハ佛國政府ハ一九〇七年六月十日ノ「宣言」ヲ精
神ニ依リ印度支那ニ於テ日本及日本人ニ對シ其ノ他ノ諸外國ニ比シ
優越ナル地位ヲ保障スル方法ヲ遲滯ナク檢討スルノ用意アリ但シ右
ノ結果日本人ニ與ヘラルル地位ハ六十年以上ノ努力ニ依リテ印度支
那現在ノ繁榮ヲ築上ゲタル佛國人ノ地位ト全ク同等ナルコト能ハザ
ルベシ